

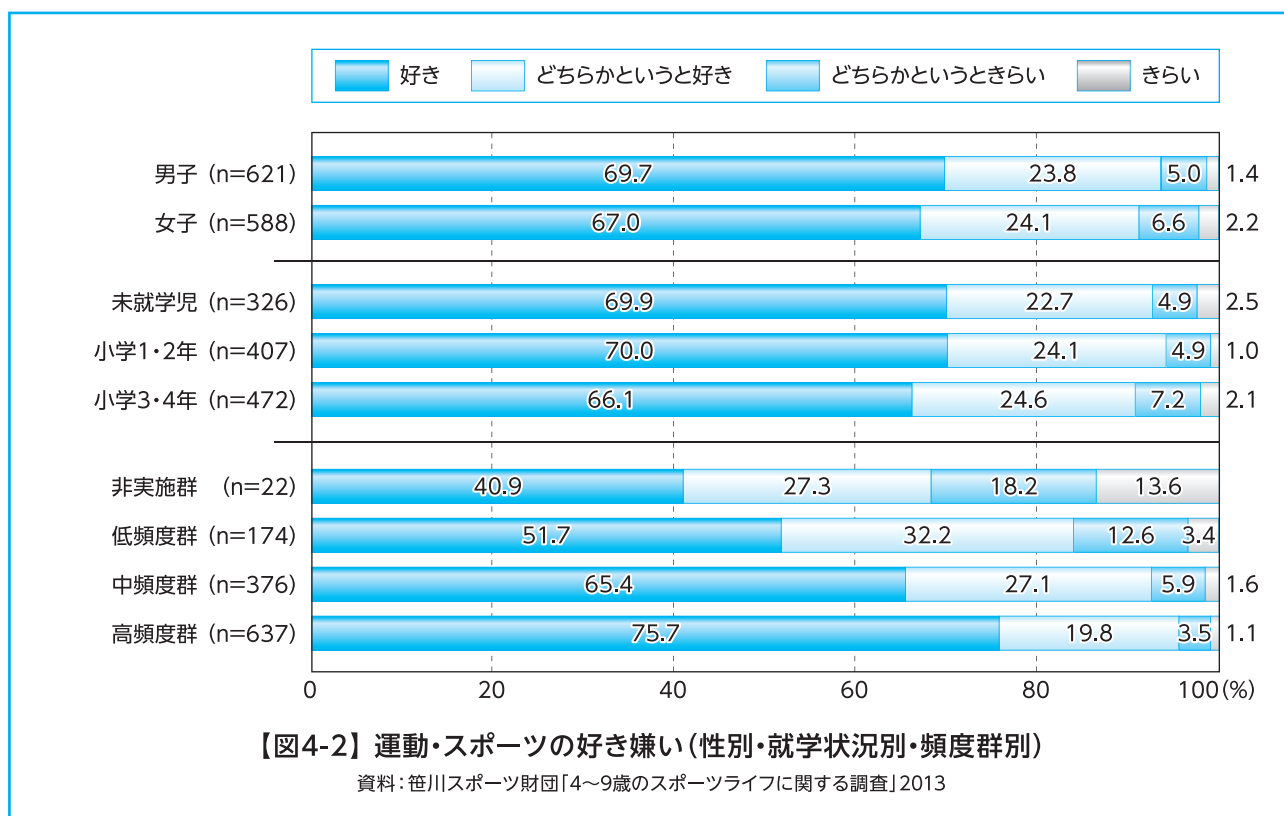
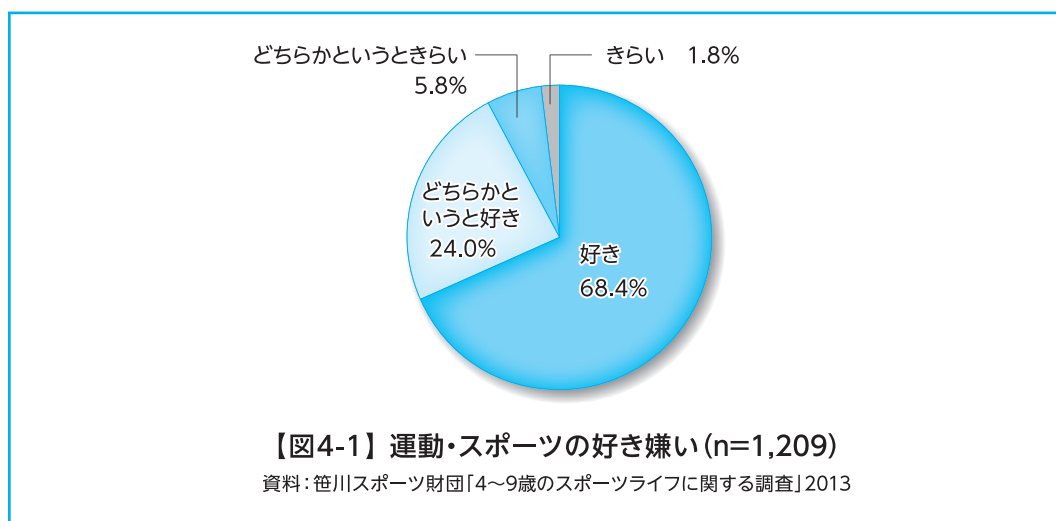
4 スポーツへの態度

4-1 運動・スポーツの好き嫌い

「あなたは、運動やスポーツ、運動あそびをするのは好きですか」とたずねたところ、「好き」68.4%、「どちらかという好き」24.0%、「どちらかというときらい」5.8%、「きらい」が1.8%であった（図4-1）。「好き」と「どちらかという好き」の割合を合わせると92.4%であり、ほとんど

の者が運動やスポーツ、運動あそびが好きと回答した。

性別にみると、「好き」「どちらかという好き」を合わせた割合は、男子では93.5%、女子では91.1%であり、男女ともにほとんどの者が運動やスポーツ、運動あそびが好きと回答した（図4-2）。



就学状況別にみると、「好き」「どちらかという好き」を合わせた割合は、未就学児は92.6%、小学1・2年は94.1%、小学3・4年は90.7%と、未就学児から小学1・2年にかけて運動・スポーツ、運動あそびが好きな者が増加するが、小学1・2年から小学3・4年にかけてはやや減少する。

運動・スポーツ実施頻度群別にみると、「好き」「どちらかという好き」を合わせた割合は、非実施群68.2%、

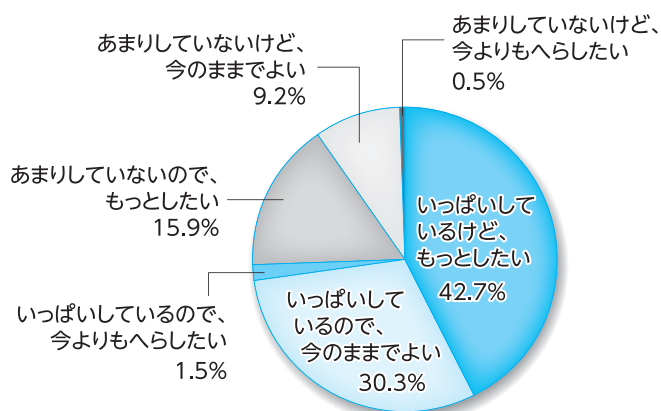
低頻度群83.9%、中頻度群92.5%、高頻度群95.5%と、実施頻度が高い者ほど、運動・スポーツ、運動あそびが好きであると回答していた。週7回以上運動やスポーツ、運動あそびを行っている高頻度群では、ほとんどの者が『好き』と回答しているのに比べて、過去1年間にまったくしなかった非実施群では27ポイント低い7割程度にとどまる。

4-2 運動・スポーツの実施意欲

「あなたは、運動やスポーツ、運動あそびをもっとしたいですか」とたずねたところ、「いっぱいしているけど、もっとしたい」が42.7%、次いで「いっぱいしているので、今のままでよい」30.3%、「あまりしていないので、もっとしたい」15.9%であった(図4-3)。「いっぱいしているけど、もっとしたい」と「あまりしていないので、もっとしたい」の割合を合わせると、運動・スポーツ、運動あそびを「もっとしたい」と回答した者は58.6%と6割を占めた。

性別にみると、男女ともに「いっぱいしているけど、もっとしたい」が最も多く、次いで、「いっぱいしているので、今のままでよい」であった(図4-4)。「いっぱいしている

けど、もっとしたい」は、男子42.0%、女子43.3%と、女子が男子を上回るが、「いっぱいしているので、今のままでよい」では、男子32.6%、女子27.9%と、男子の割合は女子に比べて4.7ポイント高い。「もっとしたい」(「いっぱいしているけど、もっとしたい」+「あまりしていないので、もっとしたい」)と回答した割合をみると、男子57.3%、女子59.8%と男子に比べて女子のほうが運動・スポーツに対する実施意欲が高いと言える。一方で、女子では「いっぱいしているので、今のままでよい」の割合が男子に比べて低く、女子は自身の運動・スポーツ実施状況に対する意欲が低い様子がうかがえる。



【図4-3】 運動・スポーツをもっとしたいか (n=1,191)

資料：笹川スポーツ財団「4～9歳のスポーツライフに関する調査」2013

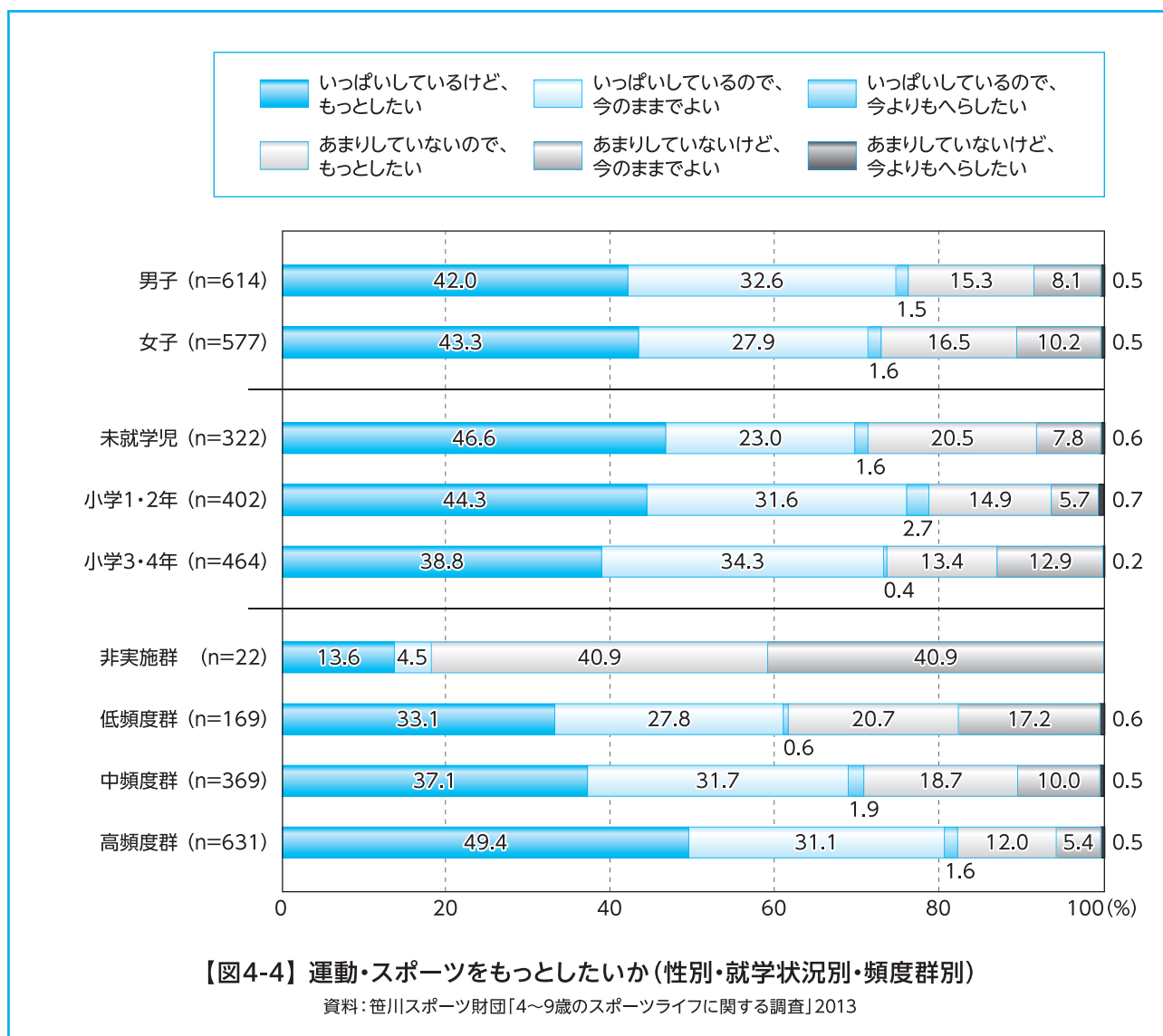
就学状況別にみると、いずれの学年も「いっぱいしているけど、もっとしたい」が最も多く、次いで「いっぱいしているので、今のままでよい」であった。「いっぱいしているけど、もっとしたい」は、未就学児46.6%、小学1・2年44.3%、小学3・4年38.8%と、学年進行にともなってその割合は減少する。

一方で、「いっぱいしているので、今のままでよい」は、未就学児23.0%、小学1・2年31.6%、小学3・4年34.3%と、学年が上がるにつれて増加する。また、未就学児では「あまりしていないので、もっとしたい」は20.5%であり、「いっぱいしているけど、もっとしたい」の割合を合わせると、運動・スポーツ、運動あそびをもっとしたいと感じている者は7割近くを占める。

運動・スポーツ実施頻度群別にみると、「いっぱいしているけど、もっとしたい」と回答した割合は、非実施群13.6%、

低頻度群33.1%、中頻度群37.1%、高頻度群49.4%であり、実施頻度が高くなるにしたがって増加する。「あまりしていないので、もっとしたい」は、非実施群40.9%、低頻度群20.7%、中頻度群18.7%、高頻度群12.0%であり、実施頻度が低い者ほど、運動・スポーツ、運動あそびをもっとしたいと感じていた。

一方で、「いっぱいしているので、今のままでよい」と回答した割合は、非実施群4.5%、低頻度群27.8%、中頻度群31.7%、高頻度群31.1%と実施頻度が高くなるにつれて増加するが、非実施群以外はいずれも3割程度であり、現在の運動・スポーツ実施状況への満足度にあまり違いはみられない。週7回以上の実施者である高頻度群と、週3回未満の低頻度群も同様に「いっぱいしている」と感じている状況がうかがえる。



4-3 運動・スポーツをしない理由

過去1年間に運動・スポーツをまったく行わなかった者を対象とし、行わなかった理由を複数回答でたずねた。「する場所や機会がないから」が35.0%と最も多く、次いで「他にしたいことがあるから」「はிரりたい運動部や地

域のスポーツクラブがないから」「特に理由はない」がいずれも15.0%であった(表4-1)。また、「きらいだから」「してみたいと思わないから」「疲れるから」といった回答もみられた。

【表4-1】運動・スポーツをしない理由(n=20:複数回答)

順位	理由	%
1	する場所や機会がないから	35.0
2	他にしたいことがあるから	15.0
	はிரりたい運動部や地域のスポーツクラブがないから	15.0
	特に理由はない	15.0
5	きらいだから	10.0
	してみたいと思わないから	10.0
	自分のやりたいと思う運動・スポーツがないから	10.0
8	疲れるから	5.0
	からだの調子が悪いから	5.0
	まだ幼いから	5.0
	経済的な事情	5.0
	障害児を受け入れてくれるところがないから	5.0

資料：笹川スポーツ財団「4～9歳のスポーツライフに関する調査」2013

Comments

■現在、子どもをスイミングを習わせていますが、本人はあまり運動に関心がありません。放課後などに学校の友人と体育館、運動場でいろんな種目を経験できる活動の場があれば、やってみたいという気持ちになってくれるのではと思います。(9歳女子の母親)

■学校教育の中で、運動のカリキュラム時間を増やすべきと考えます。スポーツに触れる環境についても地域格差が出ていると感じますので、ある程度一律の環境整備は必要ではないでしょうか？(4歳女子の父親)

■地域で様々なスポーツを体験できる企画を増やしてほしい。野球やサッカー、水泳といった特定の種目だけでなく、もっと幅広く体験させてあげることで、子どもがスポーツの種類を知るきっかけになると思う。(6歳男子の母親)

■子どもの周りにスポーツに関心のある人がいるかどうかで、子どもがスポーツをする・しないの違いは出てくると思います。親が遊びながらも、スポーツと一緒にするのが一番いいことですね。からだを動かす楽しさをもっと教えてあげたいと思います。(8歳男子の母親)

資料：笹川スポーツ財団「4～9歳のスポーツライフに関する調査」2013